

令和 7 年度病虫害発生予報第 3 号（7 月予報）概要表

令和 7 年 6 月 2 6 日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5 月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）紋枯病		やや多
（3）縞葉枯病		並
（4）ヒメトビウンカ		多
（5）セジロウンカ		並
（6）ツマグロヨコバイ		並
（7）斑点米カメムシ類		多
（8）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第 3 世代幼虫）	やや早	並
<u>2 水稻（5 月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）縞葉枯病		並
（3）ヒメトビウンカ		やや多
（4）セジロウンカ		並
（5）ツマグロヨコバイ		並
（6）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第 3 世代幼虫）	やや早	並
（7）イチモンジセセリ（イネツトムシ）（第 2 世代幼虫）	やや早	並
<u>3 大豆の播種前防除対策</u>		
（1）紫斑病		
<u>4 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）ハダニ類		やや多
（3）アブラムシ類		並
（4）果樹カメムシ類		多
（5）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 なす（夏秋栽培）</u>		
（1）褐色腐敗病		並
（2）オオタバコガ		やや多
（3）ハダニ類		並
（4）アザミウマ類		多
（5）アブラムシ類		やや多
<u>6 ねぎ（秋冬栽培）</u>		
（1）黒斑病		並
（2）軟腐病		並
（3）シロイチモジヨトウ		多
（4）ネギアザミウマ		やや多
<u>7 いちご（苗）</u>		
（1）炭疽病		並
（2）ハダニ類		やや多
（3）アブラムシ類		並
<u>8 茶</u>		
（1）炭疽病		やや多
（2）チャハマキ（第2世代幼虫）	やや早	やや少
（3）チャノコカクモンハマキ（第2世代幼虫）	並	並
（4）チャノホソガ（第2世代幼虫）		並
（5）チャノミドリヒメヨコバイ		並
（6）カンザワハダニ		並
（7）チャノキイロアザミウマ		やや多
（8）クワシロカイガラムシ（第2世代幼虫）	早	

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 7 年度病虫害発生予報第 3 号（7 月予報）

令和 7 年 6 月 26 日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5 月中旬までの移植）（1/2）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○6 月中旬の発生量：多 □5 月 1 日～6 月 25 日までの 感染好適条件の出現日数 27 日（平年：23.4 日）：並（±） □県予察ほ場での発生量：無 （－） □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂で軟弱な稲 体となり、発生を助長するため、適正な追 肥を実施する。 ・防除所発表の「いもち病（葉いもち）感染 好適条件出現日数」（ 参照 3 ）で好適日が続 いた場合、または常発地ではほ場をよく見 回り早期発見に努める。
紋枯病	やや多	○6 月中旬の発生量：並 □前年の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（＋）	・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂となり発生 を助長するため、適正な追肥を実施する。
縞葉枯病	並	○6 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：やや 少（－） □ヒメトビウンカ越冬世代幼 虫の縞葉枯病ウイルス保毒 虫率（ 参照 4 ）：やや少（－） □7 月のヒメトビウンカの予想 発生量：多（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考にヒメトビウンカの防除対策を 実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取 り処分する。
ヒメトビ ウンカ	多	○6 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・本虫は黒すじ萎縮病を媒介するため、箱施 薬していない場合は本田防除を実施する。
セジロウンカ	並	○6 月中旬の発生量：無 □5 月 1 日～6 月 25 日までの 飛来予測日数 3 日（平年 3.2 日）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（＋）	・ほ場をよく見回り早期発見に努める。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

1 水稻（5 月中旬までの移植）（2/2）

病虫害名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
ツマグロ ヨコバイ	発生量 並	○6 月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場での発生量：並 （±） □気象予報：気温は高い、降水量は 平年並か少ない（+）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など）では多発しやすいので早期発見に努める。
斑点米 カメムシ類	発生量 多	○6 月中旬の発生量：多 □県予察ほ場での発生量：並 （±） □気象予報：気温は高い、降水量は 平年並か少ない（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・水田内外の雑草で増殖するため、通年で雑草管理を実施する。 ・出穂期前後 2 週間の除草作業は、本田への侵入を助長するため実施しない。 ・イネカメムシは、出穂期～穂揃期（不稔対策）及び穂揃期の 7～10 日後（斑点米対策）に薬剤による防除を実施する。
フタオビ コヤガ （イネアオムシ） （第 3 世代幼虫）	発生時期 やや早 発生量 並	○6 月中旬の発生量：やや多 ■6 月 26 日現在の有効積算温度による第 2 世代成虫の予測 発蛾最盛日 7 月 6 日（平年 7 月 9 日）：やや早（+） □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は 平年並か少ない（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が 7 月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測」を参考にし、第 3 世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に第 2 世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 3：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（令和 7 年 6 月 15 日まで）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

参照 4：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果（令和 7 年 1 月 16 日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20250116.html

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（1/2）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月25日までの 感染好適条件の出現日数 27 日（平年：23.4 日）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（－）	・ほ場内の余り苗は感染源となるため、早め に撤去する。 ・防除所発表の「いもち病（葉いもち）感染 好適条件出現日数」（ 参照 3 ）で好適日が続 いた場合、または常発地ではほ場をよく見 回り早期発見に努める。
縞葉枯病	並	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬移植の県予察ほ場 での発生量：やや少（－） □5月中旬までの移植地域で の発生量：並（±） □本作型の地域では抵抗性品 種の作付割合が高い（－） □7月のヒメトビウンカの予 想発生量：やや多（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考にヒメトビウンカの防除対策を 実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取 り処分する。
ヒメトビ ウンカ	やや多	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬までの移植地域で の発生量：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	並	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月25日までの 飛来予測日数 3 日（平年 3.2 日）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（＋）	・ほ場をよく見回り早期発見に努める。
ツマグロ ヨコバイ	並	○6月中旬の発生量：－ □本作型の地域では抵抗性品 種の作付割合が高い（－） □気象予報：気温は高い、降水 量は平年並か少ない（＋）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たな い品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」な ど）では多発しやすいため、早期発見に努 める。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（2/2）

病虫害名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第3世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 並	○6月中旬の発生量：－ ■6月26日現在の有効積算温度による第2世代成虫の予測発蛾最盛日7月6日（平年7月9日）：やや早（＋） □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測」を参考にして、第3世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に第2世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
イチモンジ セセリ (イネツトムシ) (第2世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 並	○6月中旬の発生量：－ ■6月26日現在の有効積算温度による第2世代幼虫の予測孵化最盛日7月20日（平年7月24日）：やや早（＋） □5月中旬移植の県予察ほ場での第1世代幼虫の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「イネツトムシ発育予測」を参考にして、第2世代幼虫の防除を実施する。

【共通注意事項】

- ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照3：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（令和7年6月15日まで）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

3 大豆の播種前防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
紫斑病	・本病害に対する抵抗性品種（「里のほほえみ」等）を栽培する。 ・健全な種子を選ぶとともに昨年発生したほ場に作付けをする場合は、必ず薬剤で種子を消毒する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なし

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○6 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・「幸水」の果実は感受性が高まる時期であるため、発生に注意する。
ハダニ類	やや多	○6 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・高温期は増殖が早い、こまめに発生状況を確認する。
アブラムシ類	並	○6 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	
果樹 カメムシ類	多	○6 月中旬の発生量：散見 □予察灯等による誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ) (第 2 世代幼虫)	やや多	○6 月中旬の発生量：－ □フェロモントラップによる第 1 世代成虫の誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・交信攪乱剤（コンフューザー N 等）を速やかに設置する。ナシ園の周囲を含め広範囲で使用する事が効果的である。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、第 1 世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
褐色腐敗病	並	○6月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・発病果実の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
オオタバコガ	やや多	○6月中旬の発生量：やや少 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	並	○6月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。
アザミウマ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	
アブラムシ類	やや多	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	
【共通注意事項】			
・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	並	○6 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	
軟腐病	並	○6 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・多肥栽培では発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジ ヨトウ	多	○6 月中旬の発生量：無 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギ アザミウマ	やや多	○6 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・これから定植を行うものは、定植時の粒剤等により、初期防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（苗）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・胞子が飛散しないよう、チューブかん水など水滴の跳ね返りが無い方法でかん水する。 ・被害株は見つけ次第、速やかに除去し、適切に処分する。
ハダニ類	やや多	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・高温期は増殖が早いため、こまめに発生状況を確認する。
アブラムシ類	並	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶 (1/2)

病害虫名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	発生量 やや多	○6月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」「やぶきた」「こまかげ」「ふくみどり」は発生しやすいため、一番茶残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ (第2世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 やや少	○6月中旬の発生量：やや少 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日は6月6日（平年6月9日）：やや早（＋） □県予察灯への誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逃した園では、特に注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノ コカクモン ハマキ (第2世代幼虫)	発生時期 並 発生量 並	○6月中旬の発生量：無 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日は6月18日（平年6月16日）：平年並（±） □県予察灯への誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逃した園では、特に注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノホソガ (第2世代幼虫)	発生量 並	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の第1世代幼虫による被害芽率：少（－） □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶 (2/2)

病虫害名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量 並	○6月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：やや 少（－） □気象予報：気温は高い、降 水量は平年並か少ない（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するので除草を励行する。
カンザワ ハダニ	発生量 並	○6月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：少 （－） □気象予報：気温は高い、降 水量は平年並か少ない（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	発生量 並	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：やや 少（－） □気象予報：気温は高い、降 水量は平年並か少ない（＋）	
クワシロ カイガラムシ （第2世代幼虫）	発生時期 早	■6月26日現在、有効積算温 度（アメダスデータ青梅）に よる第2世代幼虫孵化最盛 日の予測は7月15日（平年 7月23日）：早（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除適期は、ふ化幼虫期を中心とした短期 間であるため、関係機関から出される最新 の防除時期予測に留意する。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#) から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

（令和 7 年 5 月 1 日～8 月 3 1 日）

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和7年6月26日発表)

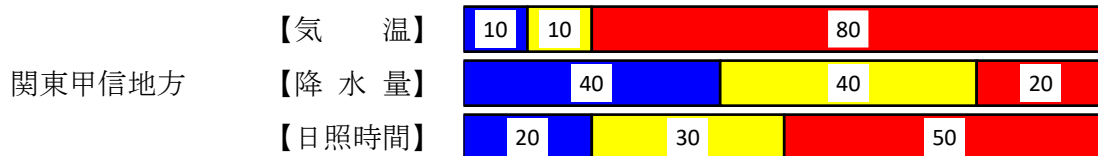
出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

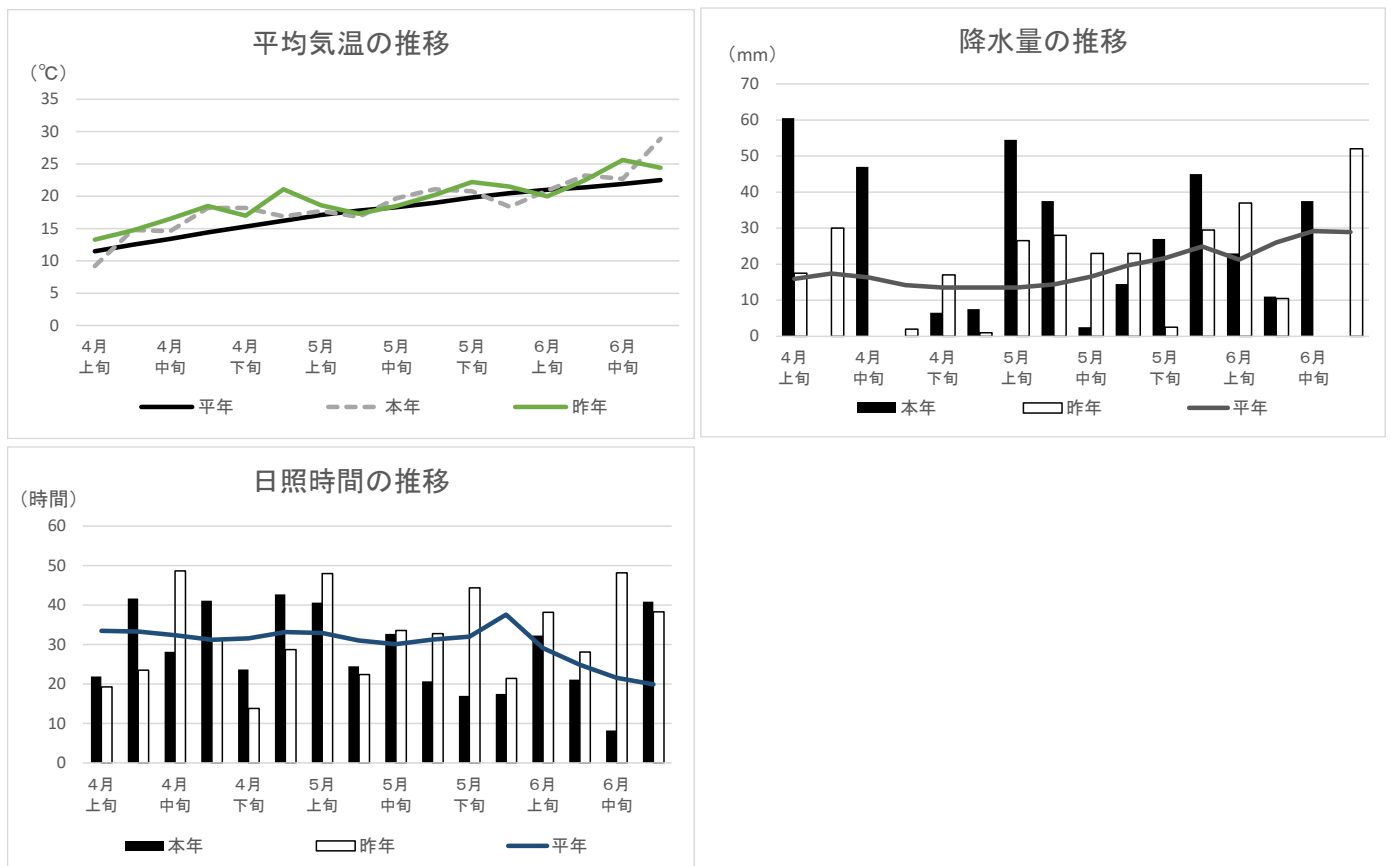
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>